CASBEE大阪みらい 建築物総合環境計画概要書 新築

■使用評価マニュアル:「CASBEE大阪みらい　新築」2018年版　(v.1.2.1)　■使用評価ソフト:「CASBEE大阪みらい　新築」2018年版　(v.1.2.1)

1-1 建物概要

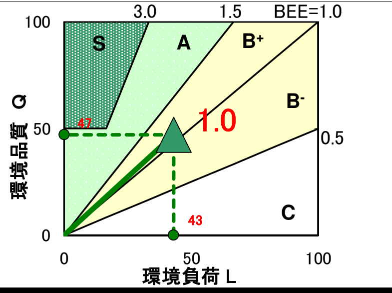
建物名称	生野区南部地区整備事業(C-1)地区生野東住宅3号館建設工事
建設地	生野区生野東1丁目
建築用途	共同住宅
建築主	大阪市長
設計者	大阪市都市整備局
敷地面積	1,956.28 ㎡
建築面積	400.19 ㎡
延床面積	2,314.08 ㎡
構造/階数	RC造 / 地上8階
完了年(予定)	2024年4月

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

B+
BEE =1.0
★★★☆☆

S: ★★★★★　A: ★★★★　B⁺: ★★★　B⁻: ★★　C: ★

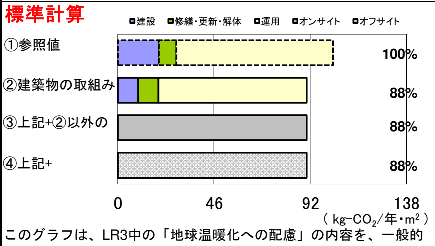


2-2 ライフサイクルCO_2(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆(2 of 5)

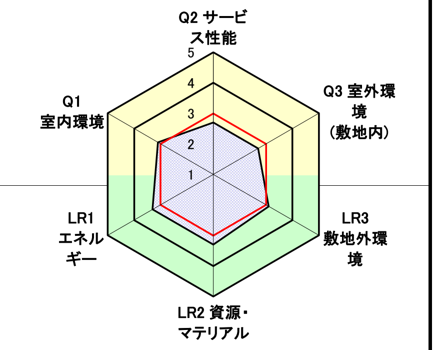
30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

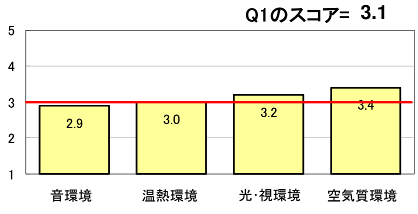


ラベル表示　有

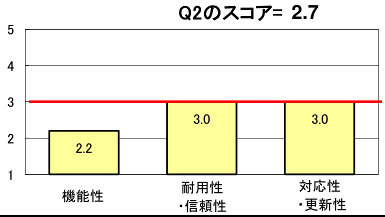
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　*Q のスコア= 2.8*

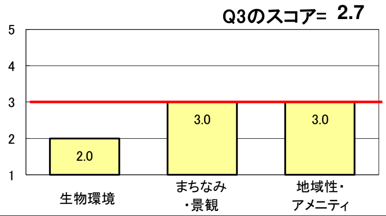
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.1



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 2.7

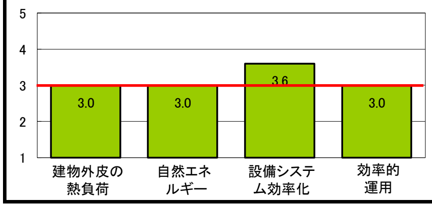


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.7

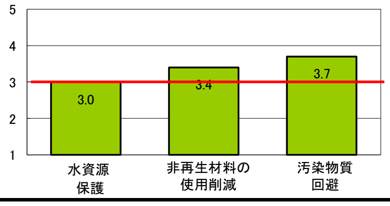


LR 環境負荷低減性　*LR のスコア= 3.2*

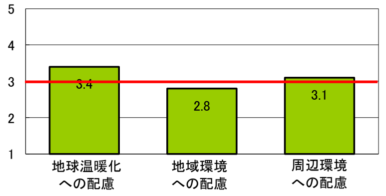
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.3



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.3



LR3 敷地外環境　LR3のスコア= 3.1



3 設計上の配慮事項

総合

建築物の環境負荷低減を目指し、自然エネルギーの活用や、設備システムの高効率化を行っている。また節水型の器具、リサイクル材および、オゾン層破壊係数や地球温暖化係数の低い材料など、自然に影響の少ないものを採用している。住宅用途のため、界壁の遮音性能や、昼光率、天井高などが基準値を大きく上回るように計画し、室内環境の向上を図っている。

その他

特になし

Q1 室内環境

大きな開口部を設けることにより、高い昼光率を確保した。さらに、界壁はRC厚み150mmとし遮音性能を高め、室内環境の向上に努めた。また化学汚染物質については、告示対象外の建材やF☆☆☆☆を採用し、室内の空気を健全に保てるようにした。

Q2 サービス性能

躯体材料は、劣化対策等級２を満たすものとし長寿命化建物とした。高さに関しては、住居の天井高を2.5m以上とし心理性・快適性に配慮を行い、設備配管やダクトは、耐用性の高い材料を採用した。また階高を2.9mとゆとりを持たせることにより、対応性・更新性の向上をはかった。

Q3 室外環境（敷地内）

植栽によって良好な景観を形成するとともに、建物の形状や色彩を周辺の街並みや風景に調和させた。また防犯性にも配慮し、敷地外からの視線を遮らない低木を主とする樹木の配置とし、死角空間を最小限にする計画とした。

LR1 エネルギー

専有部分を２方向採光・通風とすることで、自然エネルギーを利用し建物の負荷低減に配慮した。また設備システムの高効率化として、ＢＥＩがエネルギー消費性能基準を下回る計画とした。

LR2 資源・マテリアル

非構造材料に、リサイクル資材を積極的に使用し、省エネ対策・CO2の抑制に配慮した。また解体時にリサイクルを促進する対策として、躯体と仕上げ材が容易に分別できる計画とした。汚染物質含有材料の使用回避として、断熱材は押出法ポリスチレンフォームとし、ODP=0 GWP=3程度と環境負荷が極めて小さいものを採用した。

LR3 敷地外環境

周辺環境への配慮として、照明範囲を必要以上とせず、適切な広さとすることで、光害の抑制をおこなっている。また交通負荷の抑制として、駐輪場は余裕のある数を設け、利用者の利便性を考え使い易い配置とした。

建築物環境性能表示　結果〔重点評価〕

総合評価BEE　=　1. 0

ラベル表示

環境性能		評価点	
(1)CO2削減		3.0	
CO2削減に配慮した環境性能			概要記入欄
LR3/ 1 /　/	地球温暖化への配慮	3.4	
配慮事項	特になし		

環境性能		評価点	
(2)みどり・ヒートアイランド対策		3.0	
みどり・ヒートアイランド対策に配慮した環境性能			概要記入欄
Q3 / 1 /　/	生物環境の保全と創出	2.0	
Q3 / 3 /3. 2/	敷地内温熱環境の向上	3.0	
LR3/ 2 /2. 2/	温熱環境悪化の改善	3.0	
配慮事項	特になし		

環境性能		評価点	
(3)建物の断熱性		3.0	
CO2削減に配慮した環境性能			概要記入欄
LR1/ 1 /　/	建物の熱負荷抑制	3.0	
配慮事項	特になし		

環境性能		評価点	
(4)エネルギー削減		4.0	
CO2削減に配慮した環境性能			概要記入欄
LR1/ 3 /　/	設備システムの高効率化	3.6	
配慮事項	特になし		

省エネルギー基準計算結果

基準適合状況	

※ 外皮性能については、住宅部分が等級4（相当）以上、非住宅部分が1.0以下であること
※ 一次エネルギー消費量については、建物全体のBEI、BEImが1.0以下であること（新築時）
（基準適合義務がある部分については、その部分のBEI、BEImが1.0以下であること）

	住宅部分（品確法等級）	非住宅部分[BPI][BPIm]	
外皮性能	等級3（相当）	-	

	建物全体[BEI][BEIm]	住宅部分[BEI]	非住宅部分[BEI][BEIm]
一次エネルギー消費量	0.94	0.94	-